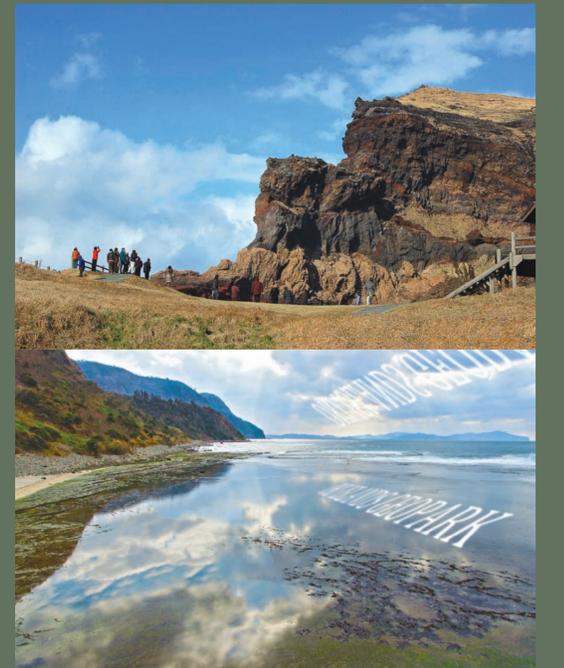
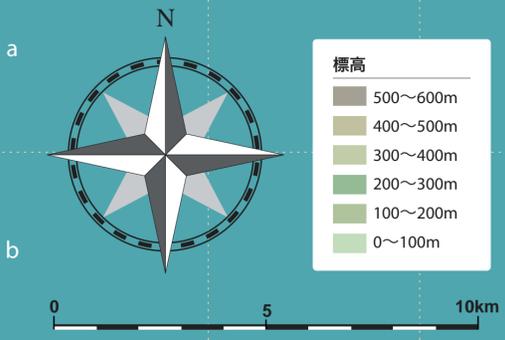




隠岐ジオパーク 見どころマップ

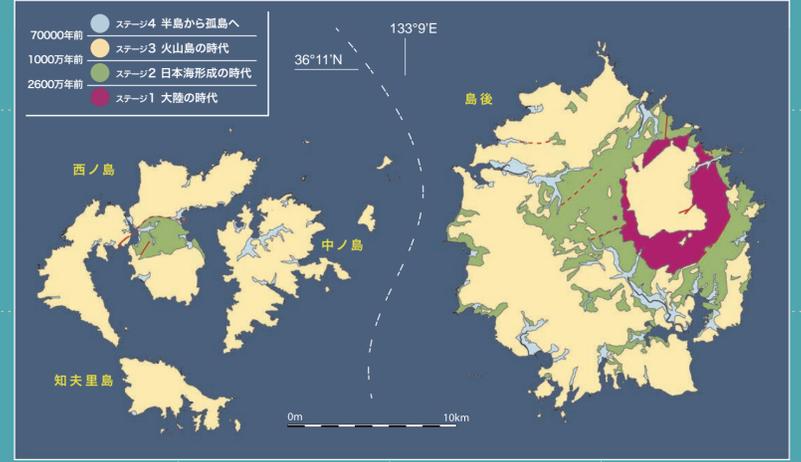


OKI ISLANDS GEOPARK



隠岐ジオパーク地質図

隠岐ジオパークの地質は、その時代に何が起きたのかを物語ります。



島後 (隠岐の島町)



西ノ島 (西ノ島町)



中ノ島 (海士町)



知夫里島 (知夫村)



観光情報案内

- ・(社) 隠岐の島町観光協会... 島後の観光情報
Tel/Fax 08512-2-0787/3950 E-mail dogoport@tx.miracle.ne.jp
- ・西ノ島町観光協会... 西ノ島の観光情報
Tel/Fax 08514-7-8888/8890 E-mail kuniga@chiva.ocn.ne.jp
- ・海士町観光協会... 中ノ島の観光情報
Tel/Fax 08514-2-0101/0102 E-mail info@oki-ama.org
- ・知夫里島観光協会... 知夫里島の観光情報
Tel/Fax 08514-8-2272/2278 E-mail sekikeki@mx.miracle.ne.jp
- ・隠岐観光(株)... 島前航船
Tel/Fax 08514-6-0016/0018
- ・隠岐汽船(株)... フェリー、高速船
Tel 08512-2-1122

島前カルテラ

西ノ島、中ノ島、知夫里島の3つの島で形成される島前は、海に浮かぶカルテラ地形です。

島前は約630~530万年前の火山活動によって形成されました。火山活動中に陥没したくぼち(カルテラ)は島前の内海、中央火口丘は焼火山(たぐひさん)にあたります。

隠岐ジオパーク・モデルコース

隠岐ジオパークを体験するためのモデルコース。

島前

西ノ島
知夫里島

- ・知夫里島(約3時間30分)
来居港 → 河井の湧水 → 文鏡上人の墓 → 松養寺 → 一宮神社 → 赤壁 → 赤八ヶ山 → 姫宮神社 → 来居港
- ・中ノ島(約5時間)
菱浦港 → 八雲広場 → 隠岐神社 → 金光寺山
明屋海岸 → 天川 → 三穂神社 → 名馬寿号の墓 → 木路ヶ崎灯台 → 菱浦港
- ・西ノ島(約6時間)
別府港 → 黒木御所 → 焼火山 → 由良比女神社 → 鬼舞展望所 → 赤尾展望所 → 通天橋 → 摩天崖 → 別府港

島後

東コース
西コース

- ・島後東コース(約7時間)
西郷港 → 玉若許命神社・億岐家住宅 → 隠岐国分寺跡 → 水若許神社 → 白島展望台 → 中村海岸 → トカゲ岩展望台 → 大山神社 → 乳房杉 → 浄土ヶ浦 → 春日神社 → 龍ヶ滝 → 佐々木家住宅 → 西郷港
- ・島後西コース(約7時間)
西郷港 → 西郷岬 → 奥津戸海岸 → 都万舟小屋 → 光山寺 → 壺鏡の滝 → 那久岬 → 油井の池 → 福浦トンネル → 久見海岸 → 水若許神社 → 隠岐国分寺 → 玉若許命神社 → 西郷港

隠岐ジオパークからのメッセージ 「つながりを見つけよう。」

周囲を海で隔てられた隠岐ジオパーク。ここは島だからこそ、大地、生物、人間の深いつながりを見つけることができます。

・隠岐ジオパークの特徴

隠岐には他の地域では見られない生態系と歴史文化があります。昔の日本の面影を残す隠岐の風景は、離島という地理、そして隠岐の地質を背景としています。その地質には、日本が大陸と一緒にあった時代や、日本海と日本列島の形成の時代、火山島の時代など、さまざまな時代の出来事が記録されており、それらを美しい景観の中に見ることができます。

隠岐ジオパークでは、これらの大地と関係した「人の営み」や「独自の生態系」、そして「大地の成り立ち」そのものの作り出した景観やつながりを、体験や観光の中で楽しむことができます。

人の営み 独自の生態系
大地の成り立ち

・隠岐ジオパークのエリア

隠岐ジオパークは、島根半島の北40~80kmの日本海に点在する4つの有人島と大小180余りの無人島からなる隠岐諸島を中心としています。離島という地理的環境と海洋生物や漁業などの人の営みを含め、隠岐を取り巻く環境そのものをジオパークとしているため、海岸から1kmの海域をあわせて628km²(陸域346km²、海域282.5km²)を隠岐ジオパークの範囲としています。

・ジオパークとは?

ジオパークは科学的に重要な、あるいは美しい地質遺産を有するだけでなく、歴史文化や生態系を含む大地の公園を指し、隠岐諸島は2009年に「日本ジオパーク」に認定され、現在は「世界ジオパーク」への認定申請を行っています。

【お問い合わせ先】

- ・隠岐ジオパーク推進協議会
〒685-8601 島根県隠岐郡隠岐の島町港町奥口24
Tel / Fax 08512-2-9636 / 9626 E-mail info@oki-geopark.jp
- ・隠岐観光協会
〒685-0013 島根県隠岐郡隠岐の島町中町自貫の西 57番地
Tel / Fax 08512-2-1577 / 1406 E-mail okikan@e-oki.net Web http://www.e-oki.net

みんなのために隠岐の自然を守りましょう。
<http://www.oki-geopark.jp>



西ノ島 (西ノ島町)

島前カルデラと日本海が生み出した景観

1.黒木御所跡 (くろぎごしょあと)

別府湾を望む天皇山と呼ばれる小高い丘の頂に黒木御所跡があります。元弘2年(1333)に隠岐へ配流となった後醍醐天皇が脱出となった1年余りを過ごされた行在所と伝えられており、周辺には、千福寺御所跡、三位の局御殿跡、隠岐判官館跡など、後醍醐天皇にまつわる史跡が残されています。

2.美田八幡十方拝礼(みたまはちまんじゅうはいらい)

美田八幡宮と日吉神社の祭礼に登場される田楽は「十方拝礼」(じゅうはいらい)と呼ばれ、美田八幡宮の田楽は平成4年(1992)に国の重要無形民俗文化財に指定されています。隔年の9月15日に八幡宮の拝殿前で行われる枝敷で「獅子舞」「神の相撲」が行われた後「田楽」が奉納されます。

3.美田ダム (みただむ)

焼火山の北にあるダムで、その周囲には島前が一番古い約1800万年前の湖の地層を見ることができます。加工がし易い「緑色」しているため、産出される地名から「美田石」と呼ばれる石垣などの石材として古くから利用されてきました。また、美田ダムの周辺は、ホテルの名所としても知られています。

4.シヤーラ船(しやーらふね)

シヤーラ船とは、お盆に供物を乗せ精霊流しをする船のことともいいます。船のケール、フレームなどの骨格部分は木と竹、外板は茅葺で作られ、帆をかたどって張られた縄には経文の書かれた無数の色紙帳が結びつけられています。海に浮かべられた絵はちぎり絵を見ているような美しさです。



5.由良比女神社 (ゆらひめじんじゃ)

平安時代に「隠岐国一宮」に定められた古社で、隠岐四大社のひとつです。鳥居の前は浅い入り江になっており、イカの大量が押し寄せてくることもあります。主祭神である由良比女命が桶に乗ってこの地に来る途中、イカが手を噛み、その謝罪としてイカが浜に打ち上がるといわれています。

6.鬼舞展望台 (おにまいてぼうだい)

島前カルデラの全体景観と中央火砕丘である焼火山を一望できます。どかな内海の風景と外海を一望できる眺めは、内海から外海へ出る前には、内海から外海へ出るために船に上り、船越しという地名が付いたといわれています。大正9年(1915)に完成した運河の幅は3.3mでしたが、現在は1.2mに拡張されています。

7.明暗の岩屋 (あけくれのいわや)

国賀海岸遊覧船の西国賀コースで行くことができます。複数の海食洞がくわいてできた長さ250mの洞窟の中を遊覧船で入る事ができますが、遊覧船が洞窟の幅とほぼ同じ大きさなので、気象条件によっては入る事が出来なない場合もあります。初めの挑戦で入る事ができた人は幸運の持ち主かもしれません。

8.赤尾展望所 (あかおてぼうしよ)

国賀海岸の南側の突き出した半島からは摩天崖、通天橋、天上界、国賀浜を一望することができます。国賀海岸の特徴である煮食海岸の島や奇岩の多い景観を観察するには絶好の場所です。600万年前の火山活動によって作られた岩石は、日本海の強い北西風と荒波で今も崩れています。

9.国賀海岸 (くにかいがん)

落差257mの摩天崖から見る風景は訪れる人を圧倒し、雄大な景観を楽しむとともに波の浸食によって形成されたさまざまな地形と、その崖面に現れる火山活動の記録を見ることができます。摩天崖の頂上から奇岩の立ち並ぶ通天橋、天上界に向けて約2kmの遊歩道が整備されており、遊歩道にも選ばれています。

10.国賀海岸遊覧船(くにかいがんゆうらんせん)

遊覧船では陸上からは違った雄大な景観と浸食によって作り出された数多くの奇岩を楽しむことができます。東国賀コースでは、つばめ御殿、巨大な屏風が三つ並んだ「屏風が岳」が見どころとなり、西国賀コースでは鬼が島、金棒岩、通天橋、観音岩などの奇岩とともに、雄たくそびえ立つ摩天崖が迎えてくれます。

11.船引運河 (ふなびきりうが)

西ノ島中央部の細くびれた部分に、長さ330mの船引運河があります。運河がある前には、内海から外海へ出るために船を陸に引上げることができ、船越しといふ地名が付いたといわれています。大正9年(1915)に完成した運河の幅は3.3mでしたが、現在は1.2mに拡張されています。

12.焼火山 (たぐひさん)

西ノ島諸島の中心に立つ高い山(452m)、カルデラ地形の中央火砕丘と併せて焼火山の跡です。その中に建つ焼火山神社は隠岐で最も古く、国指定重要文化財にもなっています。古くから航海安全の神として信仰され、カルデラ地形の島が遊覧船や目印として機能していたことを教えてくれます。

13.島前神楽 (どうぜんかぐら)

島前神楽とは、2年に1回焼火山神社で奉納される神楽で、古くから島民の信仰の神楽は船上で舞われるのが特徴となっています。島後神楽の悠長な囃子に対して島前神楽は速めな囃やかな囃子であること。大蛇退治の「八重理」は島後神楽にはなく島前神楽だけの演目となっています。県指定無形民俗文化財。

中ノ島 (海士町)

地形に恵まれた歴史の島

1.八雲広場 (やむろひろば)

明治25年(1892)に妻と共に隠岐を旅した小泉八雲は、美しく緑のよな妻浦の海を気に入り「緑ヶ浦」と名づけた。日本の原風景を求めた八雲は、家内工業で働く島の娘たちの姿や母親の歌う子唄を心良く思っていたようです。旅の様子は「知られぬ日本の面影～伯耆から隠岐へ～」で紹介されています。

2.隠岐神社 (おきしんじや)

承久3年(1221)、承久の乱によって配流された後鳥羽上皇は、源福寺を行在所とし19年後の延元元年(1239年)2月22日に海士町豊田へ配流された。隠岐神社は昭和14年(1939年)4月、崩御700年に際して行われた「後鳥羽天皇七百年祭」にあわせて建てられました。

3.金光寺山 (きんこうじざん)

遠祖副使であった小野篁(おののたむら)は大徳の藤原常朝と船のことで争った結果、唐へ向けて出港する日に飯俵を使って乗船したため、藤原上皇の遊覧に触れ承久5年(838)に海士の豊田へ配流された。在島中は金光寺山の6社建理に参籠し、都に還らせ給えと祈願して仏像を作りました。

4.宇受賀命神社 (うづかのみことじんじや)

隠岐四大社の一つで、五穀豊穡、海上安全、安産の神として古くから島民の信仰を集めていた神社です。西ノ島の比奈麻治比売命(ひなまのみのみこと)を妻とするために、大山神社の神と力比べをしたと伝えられています。豊田の明後海岸にはこの伝説にちなんだ島の名前などが付けられています。



5.三郎岩 (さぶろういわ)

妻浦港の北東海上に一直線に浮かぶ、大・中・小の3つの岩です。海食を受けた玄武岩の頂上に緑の島が生え、盆栽のようにも見えます。船で近くを通ると三つから二つへ二つから一つと変化を楽しむことができます。隠岐汽船の船や海中展望船あまんぼう、遊覧船から見ることができます。

6.明屋海岸 (あきやべがし)

赤色の切り立った崖と海緑のコントラストが美しい海岸です。海士の神様の美しい姿がここで見られます。この明屋海岸は「あきやべ」と呼ばれ、この地名が付いたといわれています。また、海岸の遊歩道沿いでは、火山砕屑物(スリア)や火山流石を含むさまざまな火山噴出物を直接手で触れ観察することができます。

7.天川の水 (てんがみのみず)

奈良時代に僧の行基が隠岐を訪れた際、木陰の洞窟から湧き出た水が清く、天雲の水(天川)と名づけられました。この湧き出た水は海士の各地にあり、豊富な地下水が海士の豊かな土壌を作っています。環境省の「名水百選」にも選定されており、火山が造り出した大地の恵みを感じられる場所です。

8.三種神社 (みほじんじや)

承久3年(1221)に失敗した後鳥羽上皇は、隠岐に御配流されました。上皇の御運幸船は大雨のため急遽この島の港に到着したため、一夜の宿を探り、間近にあった(御指置)で休みながら待てましたが、第一夜は三種神社の参拝で過ごすこととなりました。

知夫里島 (知夫村)

カルデラと隠岐の玄関口の島

1.願成寺 (がんじょうじ)

後醍醐天皇が隠岐に御配流になった際、願成寺に「春光山願成寺」と名付けたと伝えられています。元々は赤い土の岩の頂上に緑の島が生え、盆栽のようにも見えます。船で近くを通ると三つから二つへ二つから一つと変化を楽しむことができます。隠岐汽船の船や海中展望船あまんぼう、遊覧船から見ることができます。

2.河井の湧水 (かわいのうづい)

知夫の東海岸から郡地区に向かう環道沿いに地蔵が立ち並び湧水がでていて場所が場所です。この河井湧水は「あきやべ」と呼ばれ、この地名が付いたといわれています。また、海岸の遊歩道沿いでは、火山砕屑物(スリア)や火山流石を含むさまざまな火山噴出物を直接手で触れ観察することができます。

9.名馬寺号の墓 (めいばせこうのみか)

日露戦争の際(1905年)、ロシア軍のステッセル將軍は乃木將軍に降伏し自分の愛馬を乃木將軍に贈りました。乃木將軍はステッセル將軍の名にちなんで馬に番号(ごう)を付けることができました。この馬は乃木が愛用していた。島中には23歳の生誕をこの地で終え、その墓は今も島の民々によって守られています。

10.木路ヶ崎 (きろがさき)

中ノ島の南端木路ヶ崎からは、焼火山を中央火口丘として、それを取り囲む山々と知夫里島、中ノ島を外輪山として急遽この島の港に到着したため、一夜の宿を探り、間近にあった(御指置)で休みながら待てましたが、第一夜は三種神社の参拝で過ごすこととなりました。

3.文覚上人の墓 (もんがくしょうにんのはか)

文覚上人は平家物語にも登場する鎌倉幕府の要人でしたが、後鳥羽上皇の政治を批判したことで隠岐に流されました。西ノ島の焼火山南側の洞窟にこもり自分を急流に流した後鳥羽上皇を呪いその洞窟で生誕を遂げましたが、友人であった安藤帯刀(あんどうたてわき)によってこの地に埋葬されました。

4.松養寺 (しょうようじ)

元々は赤い土の岩の頂上に緑の島が生え、盆栽のようにも見えます。船で近くを通ると三つから二つへ二つから一つと変化を楽しむことができます。隠岐汽船の船や海中展望船あまんぼう、遊覧船から見ることができます。

5.一宮神社 (いっくうじんじや)

正式には天佐志比古命神社(あまさしひこのみことじんじや)ですが、地元の人達は親しみを込めて一宮(いっくう)さんと呼んでいます。天佐志比古は己貴命(大國主)との説もあり知夫村の一宮です。境内には後醍醐天皇にまつわる藤原の石や、小野篁校(おののけんぎょう)にまつわる石もあります。

6.赤壁 (せきへき)

中国の故事とその崖の色から名前が付けられています。赤壁がある西側の海岸は約1kmにわたって赤・黄・灰色などの鮮やかな色をした崖が続いており、海上からもその景色を楽しむことができます。崖を彩る赤い色が馬の番号(ごう)を付けることができます。この馬は乃木が愛用していた。島中には23歳の生誕をこの地で終え、その墓は今も島の民々によって守られています。

7.牧畑の石垣 (まきはたのいしがき)

赤ハゲ山展望台への途中で見られる石垣は、島前地区において古くから900年代後半まで行われていた独特の農法である牧畑の石垣です。土壌の薄い痩せ地を活用する工夫として、土地ごとこのような石垣や木柵で区切り口で、ジオツアーのコースに利用されています。

8.赤ハゲ山 (あかはげやま)

知夫里島の最高峰である赤ハゲ山(325m)からは、西ノ島の焼火山を正面にし、島前カルデラの地形と穏やかな内海の風景を望むことができます。春は牛馬ダイコンが一面に咲く風景とともに野馬の鳴き声も聞こえます。赤壁とともに知夫里島を代表する景勝地です。

9.姫宮神社 (ひめみやじんじや)

姫宮神社の主祭神は、古事記に登場する徳徳命(やまとひめのみこと)で、一緒に神武天皇の祖母である豊玉姬命(とよたまひめのみこと)と母である玉依姫命(たまよりひめのみこと)も祀られています。祀られている神様が女神であること、神々の伝説から、産婦が乳型を奉納すると乳を授かるといわれています。

10.蘇民将来末社 (そみんしょうらいまっしや)

正式には天佐志比古命神社(あまさしひこのみことじんじや)ですが、地元の人達は親しみを込めて一宮(いっくう)さんと呼んでいます。天佐志比古は己貴命(大國主)との説もあり知夫村の一宮です。境内には後醍醐天皇にまつわる藤原の石や、小野篁校(おののけんぎょう)にまつわる石もあります。

11.鳥津島 (とりづしま)

海水浴場の奥の遊歩道沿いには、およそ550万年前のウニやコカイなどの生き物の巣穴や活動の跡の生痕が点在しています。その奥には隠岐の代表的な民話である「どぶさけ」の伝説が語られています。鳥津島から日本列島の輪を広くとられる猛毒(イタケルミコト)を祀る兼津神社もあります。

12.知夫里島灯台 (ちぶりしまとうだい)

知夫里島灯台は島の東側の高平山(149m)にあり、航海安全のため隠岐海峡を航路しています。以前は、この灯台の隣に灯台守の宿舎が建てられていたが現在は取り壊され公園として整備されています。この場所は、鳥津島との知夫里島南側の海岸風景や夕日が見える絶景ポイントとなっています。

島後 (隠岐の島町)

3つの歴史のつながり ~社会史、生物史、地史~

1.岬の爆裂火口 (みさきのばくれつかこう)

西郷湾の入り口西側には、高さ約100~50mの崖が連続して傾斜した台地になっています。海上からの崖を見るとき、赤い岩を多く見ると大きなお椀を半分にのぞいたような地形を見ることができ、これは約55万年前の噴火口の東側半分が水蒸気爆発によって吹き飛ばされた火口跡です。

2.浜岸の黒曜石 (きはまのこくようせき)

浜浜峠にある火砕岩は火砕岩によって埋められており、中には流紋岩マグマの冷たい中に作られた黒曜石、真珠岩、松脂岩などのガラス質岩石が含まれています。マグマが上昇する過程において、水分の少ない部分で黒曜石となり、水分の多い側が松脂岩、さらにその外側は破砕された火砕岩へと変化することを示しています。

3.奥津戸海岸遊歩道 (おくつうかいがんゆうぼうどう)

奥津戸海岸の遊歩道沿いでは、不思議な植物分布を簡単に見る事ができます。亜高山性のオキナギソウ、山地性のミズナラ、ツツナナカマドとともに、北系のイタヤカエガ、南方系のトラヘ、大陸性のミツバソウ、ダルマギクなどが共存し、最近ではジオツアーや環境学習の場所としても利用されています。

4.都万の船小屋 (つまのふなごや)

20棟の船小屋が整然と並び、その向こう側に山岳信仰の場所である高田山を望む風景は、静かな漁村風景をたたずめています。近くには八百丘丘が絶えたといわれる松原が広がり、日本の白砂青松百選にも選定されています。近くの海岸では、初夏から秋にかけて青白く光るワニホタルを観察することもできます。



5.大津久の礫岩 (おおづくのれきがん)

大津久の港におりて、道路右側の斜面に白い石を多く含んだ緑色の地層があることができます。この地層は約二千万年前の地層で、丸い形をした石が散らばっており川によって運ばれてきたものと推測されます。この緑色は、地層が形成された後に高温の水によって色が変化したものです。

6.カタクリの里 (かたくりのさと)

ユリ科の多年草で、3~4月にかけて咲かたピク色の可憐な花を咲かせます。本来は亜高山性の植物ですが、隠岐では海岸近くに分布しています。以前は採集などによって荒らされていましたが、地域住民のボランティア活動によってカタクリ公園(カタクリの里)として保護されています。

7.壇鏡の滝 (だんきょうのたき)

壇鏡の滝の水は古くから特別な水として信仰されてきました。滝の水を飲むと勝興事に勝つ「勝水」といわれ、今日でも島内で行われる伝統的な牛突きや相撲の試合の前日に関係者が水を飲みこまれます。隠岐に伝わるの予約した小野篁(おののたむら)が都への帰途を断つたたれた滝として知られています。(名水百選、日本の滝百選)。

8.那久岬 (なぐみさき)

神功皇后にまつわる伝説が残る那久岬は、古く海上交通の要所でした。展望台は灯台として使われていた灯籠が今でも建てられて、那久の人々が毎日火を灯した当時の様子を偲ぶことができます。夕陽のスポットとしても知られており、岬に立つ目の前には島前の島々が広がっています。

9.油井の池 (ゆいのいけ)

直径約250mの円形の池で、貴重な動物種の生息地となっています。周囲の地形から火口跡ではないかと考えられていたが、最近の調査によって大規模な地層の上部にできたことが判明しました。池の周囲には展望台や遊歩道が整備されており、ジオツアーや環境学習の場所としても利用されています。

10.油井前の洲 (ゆいまえのす)

油井漁港で見られる「前の洲」は170m x 220m程度の広がりを持ち、島後で最も広い波食帯を形成しています。約2~3万年の湖の時代の地層が東西の季節風と波浪による浸食を受けてきたもので、現在でも浸食は続いています。前の洲の約300mの海上に浮かぶ島島も、波食帯があります。

11.福浦トンネル (ふくうらとんねる)

小さな手掘りのトンネルで細(こま)トンネルと呼ばれ、大きな手掘りといふナマトを使って掘られ(まど)トンネルと呼ばれています。このトンネルは、徒歩→荷駄→自動車と移り変わった交通手段の変遷と土木技術の推移の関係を見ることができるところから日本土木学会が定める土木遺産に選定されています。

12.ローソク島 (ろーそくじま)

隠岐の自然が盛り出した巨大なオブジェ。海上に浮かぶローソク島に火が燃え上がる光景は、訪れる人の記憶にいつまでも残ります。ただ、遊覧船でしかこの景観を見ることができないので、隠岐の島町観光協会への予約が必要となります。また、ローソク島遊覧では、鉄砲岩、馬首島などの奇岩も見ることができます。

13.久見海岸 (くみかいがし)

アルカリ流紋岩の白い岩肌と流理構造が美しい久見海岸は、その海岸の風景を楽しむとともに不思議な植物分布を見ることができ、その名がつけられました。落ち武者の兜・鎧が石化したという伝説も残っており、1938年の国の名勝および天然記念物に指定されています。

14.伊勢命神社 (いせのみことじんじや)

平安時代の延喜式神名帳に記載された隠岐四大社の一つです。伊勢命神社の例祭は、隠岐でも珍しい武者を持ち鎧を身に着た武者が祭り(先陣)します。神社境内にある神楽殿では、西暦開帳年は7月25日、西暦遊歩道が整備されており、ジオツアーや環境学習の場所としても利用されています。

15.久見の船下ろし (くみのふなおろし)

標高20m程のこの場所で、亜高山性のクロクベ、オキナギカガミ、大陸系のミツバソウ、ヨシ、ヨコソウ、北系のユキキリ、ツツナナカマドが、落着いたままに育ち、南方系のトビが泳ぎを不思議な光景を見ることができ、斜面を構成する岩石は赤白の流理構造が美しいアルカリ流紋岩で、こうした場所に植物の混在が見られます。

16.白島海岸展望台 (しらしまいかんぼうざんぱい)

真北から突くように白島崎と、白島・沖ノ島等の小島を合わせて白島海岸と呼んでいます。青い海に浮かぶ白い岩肌、松の緑が映える新鮮な色彩は訪れる人に深い印象を与えてくれます。展望台への遊歩道では、11月頃まで咲くアザサイや北系系、南方系、大陸系の植物が混在する不思議な光景を見ることができ、その名がつけられました。落ち武者の兜・鎧が石化したという伝説も残っており、1938年の国の名勝および天然記念物に指定されています。

17.武良祭風流 (むらまつりふうりゅう)

隠岐島後の三大祭りの一つで西暦開帳年の10月19日に開催されます。八王子神社の月神(月天さん)と一之森神社の月神(月天さん)が、交わる日陰降臨と合祭(ニギケツイノウワコウイ)として行われ、それらによって構成されるヤタガラスとシロウサギを頭上に掲げて、祭りを3回まわりながら神事をしています。

18.海苔田島海岸 (のりたばないがし)

海岸の先陣には、兜岩・鎧岩と呼ばれる奇岩があります。突出した玄武岩があかも武士の鎧や兜のような形をしています。その名がつけられました。落ち武者の兜・鎧が石化したという伝説も残っており、1938年の国の名勝および天然記念物に指定されています。

19.浄土ヶ浦海岸 (じょうどけうらいがし)

とちで知られる一休和尚の伝説によって地名が付けられたと云われています。国立公園指定の記念切手のデザインにも選ばれており、隠岐を代表する名勝地のひとつです。海岸沿いの遊歩道では、隠岐が湖の底であった時代の地層が見られ、古くから水質の植物が混在する不思議な光景を見ることができ、その名がつけられました。

20.春日神社 (かすがじんじや)

春分や秋分の日には、朝日が島屋の真ん中に昇る感動的な瞬間を見ることができ、以前は境内に樹高日本一(60m)の松がありましたが、落着いたままに育ち、南方系のトビが泳ぎを不思議な光景を見ることができ、その名がつけられました。落ち武者の兜・鎧が石化したという伝説も残っており、1938年の国の名勝および天然記念物に指定されています。

21.大山神社 (おおやまじんじや)

天空を突くように堂々と伸びた杉の巨木は樹齢800年といわれ、大山神社の御神木として祀られています。同じ境内に2本のケヤクの巨木も存在を誇っています。隔年で行われる山祭りは、御神木にサルナシのカズラを7回り半巻つける祭りで、日本最古の山祭りとも言われています。

22.トカゲ岩 (とかげいわ)

布施地区の中谷駐車場から徒歩約10分、全長26mの巨大なトカゲが崖を這い上がっているような風景を見ることができ、トカゲ岩の頂上にはトカゲの足跡や爪の跡が確認されています。トカゲ岩の一つとも呼ばれ、世界でもアフリカ大陸のキリマンジャロ、南極大陸に隠岐の三面所で見ることができない貴重な岩質で形成されています。

23.自然回帰の森 (しぜんかいきのもり)

布施地区の中谷駐車場から神原高原へ向かう一帯は「隠岐自然回帰の森」として遊歩道や展望台などが整備されています。スズノ天然林をはじめ樹齢300年を超える巨木の数々は圧巻で、オキナギナゲの群落や稀少動植物が見られることから、代表的なトレッキングコースとして利用されています。

24.オキサンショウウオ

山地に暮らす水棲性の種類のサンショウウオですが、海岸近くから山地まで広く分布しています。2005年、絶滅が危惧される約790の希少種を代表する名勝地のひとつです。海岸沿いの遊歩道では、隠岐が湖の底であった時代の地層が見られ、古くから水質の植物が混在する不思議な光景を見ることができ、その名がつけられました。

25.屏風岩 (びょうふいわ)

鷲ヶ峰右側の西斜面には見事な柱状節理が発達しており、その形状から屏風岩と呼ばれています。約80mにも達する、崖下でも最大級の岩塊が形成されています。鷲ヶ峰は古くは修験者の修業の場にもなっており、鷲ヶ峰展望台からの景観は海岸線の風景とは違った感動を与えてくれます。

26.乳房岩 (ちちすき)

岩倉神社の御神木で、その姿からは威厳さえ感じられます。主幹は地上4m~8mのところでは15本に分岐しており、その分岐している部分から、小24個の乳房状の樹皮が垂れ下がっていることからその名が付けられています。母乳の神として崇拝され、毎年4月23日に供え物を選んで祭りに行っています。

27.龍ヶ滝 (りゅうがたき)

西郷から布施地区に向かう途中の旧龍ヶ滝トンネル手前には、龍ヶ滝と呼ばれる崖があり、滝の水は清流です。海上からこの風景を見上げると、龍のように見える玄武岩の岩場があることからその名が付けられています。近くには、玉若命まつわりの龍岩や鳥帽子岩などもあります。

28.黒島 (くろしま)

島後の東海岸沖に浮かぶ黒島は、約330万年前に出した玄武岩で形成されています。柱状節理の発達した玄武岩の中にはオリビエのかんらん岩、緑色の輝岩などが含まれており、玄武岩が上昇して行く途中でこれらの岩石を取り込んだものでマントルゼノリスと呼ばれています。

29.大久の犬島 (おおくのいぬじま)

大久の海岸で見られる犬島の下側は、緑色の凝灰岩(グリーンタフ)でできています。同じ地層層からは、ワニの化石やタニシなどの化石が発見されています。大きな岩が存在したことを想像することができます。島後では崖の上の生息地から五箇島とも呼ばれ、古くから石垣などの材料として用いられています。

30.佐々木家住宅 (ささきやじゅうたく)

隠岐最古の木造住宅で国指定重要文化財に指定されています。隠岐造りと呼ばれる隠岐独特の建築様式で、玄関が3つあるのが最大の特徴です。1975年に建てられ、25年(1950)に再建されました。使用分かれ、母屋は杉皮葺き、石置き屋根、切妻平屋建てで、寛政4年(1792)に建てられたものです。

31.水若酢神社 (みづわかすじんじや)

水若酢神社は、延喜式神名帳に列せられた隠岐国の一宮です。本殿は隠岐造りと呼ばれる建築様式で、寛政4年(1795)に建てられ、25年(1950)に再建されました。平成4年(1992)に国指定重要文化財となりました。西暦開帳年の5月3日に行われる例大祭は、島後の三大祭りとしても知られています。

32.あごなし地蔵 (あごなしじぞう)

小野篁(おののたむら)は、都へ帰るとき島の娘の古那(あごなし)に2体の木像を残しました。木像にまつわる昔い伝説から、いつしか地蔵の信仰ともなり「あごなし地蔵」と呼ばれるようになりました。毎年旧暦の7月23日には阿古那の供養のために盆踊りが行われ、二人の物語は今でも島の民々によって語りつがれています。

33.銚子のかぶら杉 (ちうしのかぶらすぎ)